

家庭科 科目「家庭基礎」学習指導案

実施日 令和2年11月9日(月)
 時間 第3・4校時(10:45~12:35)
 場所 調理実習室・家庭科室・大講堂
 対象生徒 1年F組 35名
 授業者 浅沼和子

1 単元名 第3章 高齢社会を生きる <1> 高齢期を理解する

2 目標 介護ロボット等の最新機器操作の体験を通して、介護福祉に関する興味・関心を高めるとともに、介護福祉への関わり方について自分の考えを深める。

3 生徒と単元 男子16名、女子19名、計35名の学級である。
 教師からの問いかけに対する反応が良く、学習への取り組みは全般的に良好である。設定した生活課題に関して、自分の生活体験から積極的に意見や考えを述べ合うこともあり、家庭科に対する興味・関心が感じられる。
 本時は、秋田県健康福祉部長寿社会課の「介護の仕事の魅力発見事業」を活用した授業である。本校は進学校であり、例年「介護職」への就職を希望する生徒はいない。よって、その点においてはこの事業の趣旨と若干隔たりがある。しかし、介護ロボット等の最新機器に触れる体験を通して、ロボット開発に携わるエンジニアという職業への興味をもたせたり、家庭生活に生かす介護技術を身に付けさせたりするとともに、生徒一人一人に「自分はどのように福祉社会(介護福祉)に貢献していくことができるか」という課題を考えさせたい。また、生徒が当事者意識をもちながら学習事項を生活実践に活かす動機付けとなるよう、本時の体験を新たな気づきや思考につなげていきたい。

4 指導と評価の計画(小単元2時間)

| 学習内容 (時数) | 評価規準 | | | |
|------------------------------|--|---------------------------|------|------------------|
| | A 関心・意欲・態度 | B 思考・判断・表現 | C 技能 | D 知識・理解 |
| <1> 高齢期を理解する (本時 1・2 / 3) | 介護ロボット等の最新機器操作の体験を通して、介護福祉に関する興味・関心を高める。 | 介護福祉への関わり方について、自分の考えを深める。 | | 高齢社会の現状と課題を理解する。 |

5 本時の計画

(1) ねらい [評価の観点]

- ・介護ロボット等の最新機器操作の体験を通して、介護福祉に関する興味・関心を高める。
[関心・意欲・態度]

(2) 展 開

| 段階 (分) | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評 価 |
|-------------|---|---|---|
| 導入 (10) | <p>1 本時は長寿社会課による「介護の仕事の魅力発見事業」を活用した特別授業であることを再確認する。</p> <p>—— 小単元を貫く学習課題 —— 自分にとって「介護福祉」への主体的な関わりとはどのようなものだろうか</p> <p>2 事業の趣旨等と学習の流れを知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育時の服装、マスクの着用を事前に指示しておく。 ・ 入室時は全員が手をアルコール消毒をするよう指示する。 ・ 長寿社会課の担当者と進行を交替する。 | |
| 展開 (80) | <p>3 事例発表を聴き、介護現場の現状を理解する。(調理実習室) 【事例発表】 社会福祉法人久盛会 「介護老人保健施設 あまさぎ園」</p> <p>4 四つのグループに分かれ各介護機器の説明を聞いたり、実際に装着したりする等の体験をする。 (家庭科室、大講堂) 【介護支援機器】 ①ブース：歩行アシスト、WHILL Model CK ②ブース：ハズフリー記録作成支援システム ③ブース：マッスルスーツ、Cagou-W ④ブース：aams. 介護、Hug L1</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクター・マイクを事前に準備する。 ・ 資料を事前に配付しておく。 ・ 全員が体験活動を行うとともに、積極的に質問をしながら参加するようブースを巡回し支援する。 ・ A班からD班まで、8～9名のグループとする。 ・ 体験の時間は一つのブースにつき15分程度とし、ローテーション形式で全てのブースの機器を体験する。 ・ 11:45から10分間を休憩とする。 | <p>介護ロボット等の最新機器操作の体験を通して、介護福祉に関する興味・関心を高める。</p> <p>(A) 観察・発表</p> |
| まとめ (10) | <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>6 代表者は本時の感想を発表する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価 (アンケート) ・ 代表者の発表内容を全体で共有し次時の学習との関連に触れる。 | |

* 「評価の観点」 A：関心・意欲・態度 B：思考・判断・表現 C：技能 D：知識・理解